

2020年4月入学岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【2月募集】入学試験問題

講座	国際比較経済、経済理論・統計、政策科学、経営学
プログラム	東アジア中核人材育成、政策実践、地域公共政策
専門科目	経済理論・政策（マクロ経済学）

以下の問に解答しなさい。

問 (1)から(3)の問題のすべてに解答しなさい。

(1) IS-LM 分析において、政府支出による経済対策の効果が小さくなるケースを図ないし数式を用いたモデルによって説明しなさい。

(2) 消費のライフサイクル仮説を図ないし数式を用いたモデルによって説明しなさい。その上で、資料1の下線部(A)「注目すべきは貯蓄率の低下だ。内閣府の国民経済計算によると、貯蓄額を可処分所得額で割った家計貯蓄率は2017年度で2.5%。1990年代は10%を超える水準だったが、2000年代以降は軒並み1桁台で推移する。13年度には初めてマイナスに転じた」とあるが、なぜ日本で貯蓄率が低下したのかを消費のライフサイクル仮説に基づいて説明しなさい。

なお資料2は、国立社会保障・人口問題研究所(2017)出生中位(死亡中位)の場合の人口将来推計(年齢3区分)の図である。

(3) 資料1の下線部(B)に「19年5月末時点での実質実効為替レート指数は20年前に比べて3割ほど円安に振れ、約1割円高になった実際のドル円相場との乖離(かいり)が広がっている。90年代以降のデフレや低インフレが原因・・・」とあるが、このことを図ないし数式を用いたモデルを提示しつつ説明しなさい。ただし、ここで為替レートは実質レートを対象とし、実効レートについては説明に含めなくて良い。

資料1 円高抑止に高齢化要因 貯蓄率低下 実質レートに接近も

(出典：2019年7月2日付 日本経済新聞朝刊)

資料2 日本の将来推計人口（平成29年推計）

(出典：国立社会保障・人口問題研究所（2017）『日本の将来推計人口（平成29年推計）結果の概要』)

以上